株式会社朝日ラバー

ASAHI RUBBER INC.®

# 環境・社会活動報告書2014

Environmental & Social Activities Report

**株式会社朝日ラバー**

〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2

**http://www.asahi-rubber.co.jp/**


R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

VEGETABLE OIL INK

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを 採用しています。


発行：2014.07.31

## 会社概要

| | |
|---|---|
| 商号 | 株式会社朝日ラバー（ASAHI RUBBER INC.） |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市大宮区土手町 2 丁目 7 番 2 |
| 設立 | 1976 年 6 月（創業：1970 年 5 月） |
| 資本金 | 5 億 1,687 万円（2014 年 3 月 31 日現在） |
| 証券コード | 東京証券取引所 JASDAQ 市場 証券コード 5162 |
| 従業員数 | 249 名（2014 年 3 月 31 日現在） |
| 主な事業内容 | 工業用ゴム製品の製造・販売 |
| 事業所 | ●本社<br>〒330-0801<br>埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2<br>TEL 048-650-6051　FAX 048-650-5201<br>●大阪営業所<br>〒536-0016<br>大阪府大阪市城東区蒲生1丁目12番10<br>京橋アドバンス21 205号<br>TEL 06-6930-2521　FAX 06-6930-2522<br>●福島工場<br>〒969-0101<br>福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地<br>TEL 0248-53-3491　FAX 0248-53-3493<br>●第二福島工場<br>〒969-0101<br>福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字山崎山1番地3<br>TEL 0248-54-1618　FAX 0248-54-1619<br>●白河工場<br>〒961-0004<br>福島県白河市萱根月ノ入1番地21<br>TEL 0248-21-1401　FAX 0248-21-1404 |
| 関係会社 | ●ARI INTERNATIONAL CORPORATION<br>2015 S.Arlington Heights Road, Suite 109<br>Arlington Heights, IL 60005, USA<br>●株式会社朝日FR研究所<br>〒330-0801<br>埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2<br>TEL 048-650-6051　FAX 048-650-5201<br>(福島研究室)<br>〒969-0101<br>福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地<br>TEL 0248-53-3869　FAX 0248-53-4896<br>(白河研究室)<br>〒961-0004<br>福島県白河市萱根月ノ入1番地21<br>TEL 0248-21-1403　FAX 0248-21-1407<br>●朝日橡膠（香港）有限公司<br>Unit 3, 27/F, 69 Jervois Street, Sheung Wan, HONG KONG.<br>●東莞朝日精密橡膠制品有限公司<br>中国広東省東莞市横瀝鎮西城1期B1区 第2棟<br>●朝日科技（上海）有限公司<br>〒200052<br>中国上海市長寧区延安西路1088号<br>長峰中心516室 |

## 企業行動指針

### 基本的な考え方

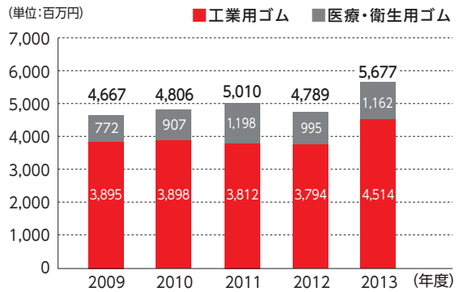
当社と当社グループ会社は、企業活動を行っていく上で遵守すべき行動指針を定めています。役員は誠実性と倫理観によって法令遵守を率先垂範し、従業員への周知徹底とグループ内体制の実効あるコーポレートガバナンスを推進していきます。また、企業行動指針に反する事象が発生した場合は、自らの責任において問題解決に当たるとともに、原因究明と適切な措置・改善を図り、再発を防止し、健全で活力ある企業経営を目指します。

社員は自己研鑽に励み、企業目標と自己実現のために、努力していきます。

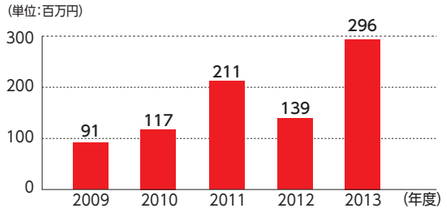
1 社員の人格と個性を尊重します
2 特徴ある企業を目指します
3 豊かな人間関係を築きます
4 会社の発展と生活の向上を目指します
5 企業活動を通じて社会への貢献をします
6 コンプライアンスを推進します
7 ステークホルダーを尊重します
8 環境への配慮、安全、安心を確保します

## 財務情報

### ■売上高推移（連結）




### ■経常利益推移（連結）




## 目次

01 会社概要
02 企業行動指針・財務情報
03 トップコミットメント
05 事業概要
07 環境への取り組み
環境理念・方針／
事業活動における目標と実績 07
環境パフォーマンスデータ／活動状況 08
11 社会への取り組み
お客様視点のものづくりの追求 11
働きやすい職場づくり 12
社会とのコミュニケーション 14

## 編集にあたって

本報告書では、朝日ラバーの環境と社会への取り組みを中心に紹介しています。
環境問題をはじめとして、私たちが果たすべき社会的責任は多岐にわたりますが、今後も活動と情報開示の充実化を目指します。

●対象組織
株式会社朝日ラバー
関係会社である株式会社朝日 FR 研究所
※環境パフォーマンスデータの集計範囲は以下の通りです。
福島工場・第二福島工場・白河工場

●対象期間
2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日
(一部対象期間外の内容を含みます)

●発行年月および次回発行予定
2014 年 7 月(次回発行は 2015 年 7 月予定)

●参照したガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン 2012 年版」
GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第 4 版」

●発行責任部署およびお問い合わせ先
株式会社朝日ラバー 管理本部企画グループ
〒330-0801
埼玉県さいたま市大宮区土手町 2 丁目 7 番 2
TEL：048-650-6056　FAX：048-650-5206
http://www.asahi-rubber.co.jp

株式会社朝日ラバー
代表取締役社長　伊藤 潤

# 特徴ある企業として、社会に価値を提供し続けます

## 事業を取り巻く環境

2013 年度の我が国経済は、政府・日銀による経済対策や欧米経済の緩やかな回復、アジアでの需要拡大などを背景に、景気が回復傾向にあります。

この度、持続的な成長を実現するため、2020 年に朝日ラバー全体が目指す姿を「AR-2020 VISION」として定め、二つのステージに分けた中期 3 カ年計画を通じて、長期ビジョンの達成を図ることとしました。

2014 年 4 月からスタートした「V-1 計画」（第 11 次中期経営計画）では、経営体制や人材の強化と整備を行い、飛躍のための基盤を築き上げる 3 年間とします。自動車、医療、ライフサイエンスを重点分野と位置づけ、コア技術を深掘りし、新たな価値の創出に挑戦し続けます。原価低減はもちろん、ものづくりを根本から見直し、事業力の強化と企業体質の変革を目指します。

## 社会課題の解決に貢献

当社は、ゴムをはじめとするソフトマテリアルとさまざまな素材を高い技術で組み合わせた製品をつくり出しており、直接・間接的な形で快適さや利便性を提供し、安全・安心な社会の実現に貢献しています。今後も社会的課題の解決に取り組み、お客様や社会のニーズに応える製品を生み出し続けることが、朝日ラバーの持続的成長につながると確信しています。

新たに開発したマイクロ流体デバイスでは、DNA 解析に応用する道が拓けてきました。これは当社の分子接着技術と、ゴムと樹脂の加工技術を融合した製品で、従来よりも短時間で検査できる技術として犯罪捜査などでの活用が見込まれています。安全・安心な社会の実現に貢献する技術であり、将来の事業の柱に育てていきたいと考えています。

## 環境負荷低減の取り組みの強化

当社の主力製品であるゴムは多くの化学物質と関わっており、事業活動での環境負荷低減に真正面から向き合うのは、当社の宿命ととらえています。既存の環境関連の法令を遵守することにとどまらず、知識や経験を活用し、将来の規制やお客様のニーズの変化を見越して、材料配合の変更や生産ラインのシミュレーションを行うなど、先手を打つ対応を強化していきます。

空調や生産設備の運転管理、設備更新などさまざまな施策を強化しているものの、好調な受注を受け、エネルギー使用量は増加しています。品質不良による再生産を防止することで、資源やエネルギーを余計に消費することを避ける取り組みを通じ、生産効率の向上と環境負荷低減をさらに推進していきます。

## 朝日ラバーならではの価値を提供

朝日ラバーの事業運営の要となるのは、一人ひとりの従業員の力であり、人材の育成です。それぞれが現状のスキルを棚卸し、主体的に学ぶことを促進する風土づくりを進めます。

2014 年 4 月より、工場長制を導入しました。技術と生産の機能を一体的に推進できる体制とすることで、新たな開発を加速するとともに、生産の革新を図ることが目的です。個人の能力を高め、さらに複数の個性が力を結集することで、社会や環境に関する課題解決に貢献するものづくりを目指します。

独自の技術革新を基盤に、社訓に掲げる「特徴ある企業」として、社会やお客様に必要とされる新しい製品を創造し、朝日ラバーだからこそ実現できる価値を世の中に提供し続けていきます。

## 第11次中期経営計画（2014 ～ 2016年度）

**目指す姿**
**AR-2020 VISION**

1. 技術革新を基盤に、新しい価値を創造し続ける企業になる。
2. 現在の仕事に慢心せず、常に変革を求め、経営環境の変化に応じ継続的に磨きをかける。
3. 人財こそが、事業運営の要とし、人材の育成を行う。

**V-2計画 Part-2（第12次）**
2017～2020 年度

**V-1計画 Part-1（第11次）**
2014 ～ 2016 年度

**中期経営方針**

**1. 既存事業の持続的成長**
- ●国内事業の質的成長
  お客様から支持される商品・技術・しくみを育成し、事業の付加価値向上を目指す。
- ●海外事業の量的成長
  経済成長の向上が期待されるアジア諸国において朝日本体の工場及び中国工場のものづくり改革を行う。

**2. 新市場・新分野への事業展開**
既存事業の成長戦略と併せ、新しい事業分野の開発・育成に取り組む。

**3. 2020 年に向けた事業基盤の強化と整備**
収益基盤の強化、会社を支える経営体制・人財の強化と整備。

| 重点 3 分野 | | |
|---|---|---|
| 自動車 | 医療 | ライフサイエンス |

**2016年度（目標）**
連結売上高 80 億円　　連結営業利益 8 億円

# 朝日ラバーの強み

ソフトマテリアルには、伸縮性・弾性・柔軟性などの性質に加えて、
導電性・耐熱性・耐紫外線性・透明性・リシール性などさまざまな機能を持たせることができます。
私たち朝日ラバーは、「色と光のコントロール技術」「表面改質およびマイクロ加工技術」
「素材変性技術」の３つのコア技術で素材の力を引き出し、人々の健康に役立つ商品、
新たなグリーン市場を創出する商品に不可欠なパーツをつくり、
お客様の期待にクオリティと経済性で応えます。

顧客・市場のニーズ

コア技術

色と光のコントロール技術
- 調色・色調管理
- 光学設計

表面改質およびマイクロ加工技術
- 無溶剤接着
- マイクロ加工
- コーティング

素材変性技術
- ナノ・分子レベル
- 加硫配合

## 重点事業領域

### 自動車

色と光のコントロール技術を応用した自動車内装、照明分野とコア技術を応用したスイッチ分野を拡大

製品
- ASA COLOR LED
- ASA COLOR LAMPCAP
- 接点ラバー、Oリング
- スイッチ用ラバー、防水カバー

### 医療

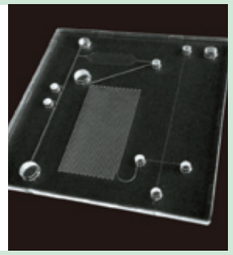
ナノ・分子レベルの素材変性技術で医療分野を支える製品を提供

製品
- プレフィルドシリンジ用ガスケット
- 採血用・薬液混注用ゴム栓
- 点滴輸液バッグ用ゴム栓
- 真空採血管用ゴム栓

### ライフサイエンス

表面処理とマイクロ加工技術で高性能製品や新たな分野を開拓

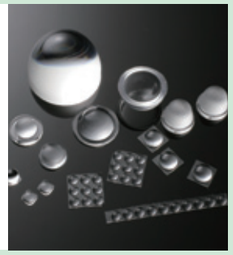
製品
- マイクロ流体デバイス
- 卓球ラケット用ラバー



### その他

コア技術の深掘りと新しい製品・新しい分野に挑戦

製品
- ASA COLOR LENS
- ASA COLOR RESIST INK
- 蛍光体シート
- RFIDタグ用ゴム製品



**ISO14001認証取得**

2000年３月……本社、福島工場、第二福島工場、大阪営業所、（株）朝日FR研究所
2007年９月……白河工場

**ISO9001認証取得**

1998年10月……本社、福島工場、第二福島工場、大阪営業所、（株）朝日FR研究所
2007年11月……白河工場

# 環境理念・方針 / 事業活動における目標と実績

「地球にやさしいものづくり」のスローガンのもと、環境方針を具現化した環境目標を毎年度に定め、
日々の事業活動の中で取り組んでいます。

**環境理念**

我々は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、
【環境にやさしいものづくり】をスローガンとして、
地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動する。

**環境方針**

株式会社朝日ラバーは、工業用・医療用・スポーツ用ゴム・プラスチック製品等の設計・製造販売企業であることを踏まえ、関係会社である株式会社朝日 FR 研究所とともに、以下の方針に基づき継続的改善を実施する。

1. 環境関連の法規制、条例ならびに約束した諸規制を遵守するとともに、本稿において定める全社的環境方針にのっとり、自主基準、業務手順を整備し、環境マネジメントの継続的改善に努める。
2. 有機溶剤等の化学物質による環境汚染の防止を図り的確な管理に努める。
3. 地球温暖化防止のために、電力・石油燃料の節減を推進する。特に製造設備・空調・照明用エネルギーの削減に努める。
4. 資源の有効活用のため、水の使用量の削減、排出物の削減と再資源化を推進する。特にゴム屑の廃棄量削減と紙・梱包資材の削減及び再資源化に努める。
5. 環境問題の改善に有益な新技術、新製品を提供するため、開発・設計段階からの製品アセスメントを推進する。
6. この環境方針達成のため、株式会社朝日ラバー及び株式会社朝日 FR 研究所の部門毎に環境目的・目標を設定し、全部門、全従業員をあげて環境マネジメントを推進する。また、環境目的・目標を定期的に見直し、必要に応じて改訂を行なう。
7. 環境方針は、小冊子にて全従業員に配布する。また外部に対しても開示する。

## 事業活動における目標と実績

2013年度(第44期)

| 方針 | | 目標 | 実績 |
|---|---|---|---|
| 環境関連法規制への取り組み | 事業活動に適用される法規制を遵守する | 水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法など | 工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽他の法定設備点検、各種届出などを行い、法令遵守に取り組みました。 |
| | 事業活動に適用される有害物質規制を遵守する | ・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令<br>・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応 | ゴムの添加剤として使用されるフタル酸エステル類(DEHP)が改正RoHS指令の検討対象物質になり、得意先から要求のあるPVCと合わせ代替配合の切替え活動を継続しました。 |
| $CO_2$削減の取り組み | 廃棄物削減 | ゴム屑廃棄量を2012年度比5%削減する | 材料の歩留り向上活動の継続に加え、バリの多い製品の受注増加により、前年度比17.1%の増加になりました。 |
| | エネルギー削減 | $CO_2$削減(電力、灯油)目標数値は工場毎に設定し活動する | 品質不良や日常の節電活動を進めましたが、受注増に伴い、電力、灯油も増加し、前年度比10.3%の増加となりました。 |

2014年度(第45期)

| 方針 | | 目標 |
|---|---|---|
| 環境関連法規制への取り組み | 事業活動に適用される法規制を遵守する | 水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの遵守 |
| | 事業活動に適用される有害物質規制を遵守する | ・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守<br>・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応 |
| $CO_2$削減の取り組み | 廃棄物削減 | LEDキャップ材料歩留り5%削減 |
| | エネルギー削減 | $CO_2$削減(電力、灯油)目標数値は工場毎に設定し、活動する |

# 環境パフォーマンスデータ / 活動状況

事業活動から発生する環境負荷についての把握・分析を行い、
これらの結果に基づいて取り組みの改善につとめています。

## 事業活動における資源・エネルギーの流れ

**INPUT**

| | |
|---|---|
| 原材料 | 429 t |
| **エネルギー** | |
| 電力 | 6,399 千kWh |
| 灯油 | 251 kℓ |
| ガソリン | 8.0 kℓ |
| 軽油 | 1.7 kℓ |
| 水 | 54,905 m³ |
| 化学物質 | 6.1 t |

株式会社朝日ラバー

**OUTPUT**

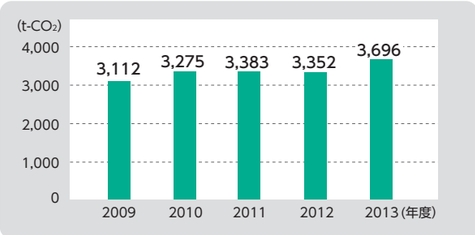
| | |
|---|---|
| $CO_2$ | 3,696 t |
| **廃棄物** | |
| ゴム屑 | 134.6 t |
| ポリシート | 30.0 t |
| その他 | 128.1 t |
| 合計 | 292.7 t |
| うちリサイクル | 233.7 t |
| (リサイクル率 | 79.9 %) |
| 排水 | 49,415 m³ |
| 化学物質 | 6.1 t |
| 製品出荷 | 360 t |

## $CO_2$排出量の低減

エネルギー起因の$CO_2$は電力が約８割、灯油が約2割となっています。2013年度は品質不良の発生防止や生産設備、空調設備の日常管理活動と老朽化エアコンの更新など、省エネ設備の導入を行いました。

しかし、既存製品の受注増と新製品の立ち上げにより電力と灯油の使用量が増加したため、電力、灯油を合わせた全体で前年度に比べ10.3%の増加になりました。

$CO_2$排出量の推移




## 省エネルギー

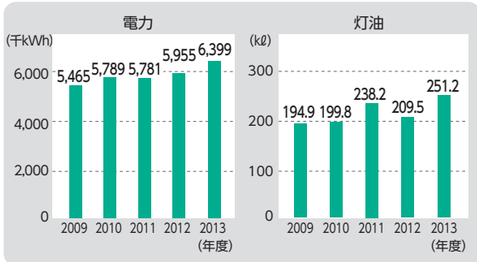
**○ 電力使用量**

夏季の空調管理によるデマンドと電気使用量の抑制、タイマーでの電源投入設備の投入時間管理、エア漏れ修理によるコンプレッサーの負荷低減、節電意識向上活動、品質不良発生防止活動などを継続して実施しました。また、福島工場では複数台存在する老朽化した大型エアコンの初年度更新（１台）を実施しました。各工場ともに受注が好調で、社内の生産高が前年度比15.7%増加し、これに伴い電力使用量も7.5%増加しました。

**○ 灯油消費量**

2013 年度は前年度からの継続事項として品質不良による再生産を減少させ、それに使用する灯油の削減に取り組みました。これにより、件数で前年度比約 30%、使用量で約 7.2kL の削減効果がありました。灯油を使用する医療用新製品の立ち上げにより、使用総量では前年度比19.9%の増加になりました。

エネルギー使用量の推移

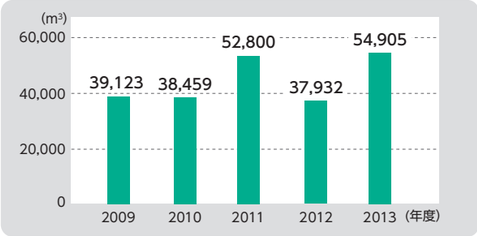


## 水使用量

2013 年度も前年度同様、品質不良による再生産を防止する品質向上活動や冬期の水道管損傷防止活動を行いました。また、週単位での水使用量の点検を行い、使用量の異常を確認しました。しかし、混練設備の冷却機構の故障により、長期間冷却水を循環水から水道水に切り替えたこと、医療用の新製品の立ち上げで新たに水の使用を開始したことから、水の使用量は前年度比 44.7%と大きく増加しました。

医療用の新製品用設備

水使用量の推移




## 化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類（DEHP、BBP、DBP）が検討対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともにPRTR法で指定される移動量の届出を行っています。

## 廃棄物の削減

当社の廃棄物で最大の割合を占めるゴム系廃棄物を削減するため 2013 年度も投入材料削減に対する活動を継続しました。また、福島工場では、金型洗浄方法を見直し、廃ウエスの廃棄量を前年度比約 50%削減しました。第二福島工場では、排水処理施設の改造に合せて汚泥脱水機を導入し、汚泥の月間発生量を前年度比約 21%削減しました。

しかし 2013 年度は生産高の増加に加え、新製品に使用した使用済み梱包資材などが増加し、前年度比 15.9%の増加となりました。

廃棄物総排出量の推移

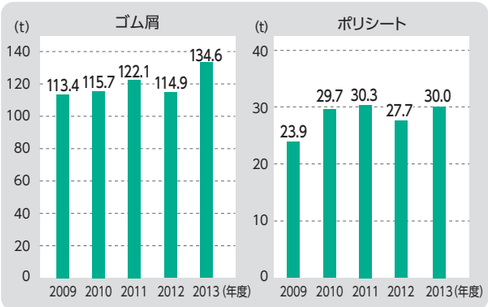
| 年度 | 廃棄物 (t) | 前年度比 (%) |
|---|---|---|
| 2009 | 263.1 | 99.2 |
| 2010 | 272.4 | 103.5 |
| 2011 | 264.2 | 97.0 |
| 2012 | 252.5 | 95.6 |
| 2013 | 292.7 | 115.9 |

廃棄物の種類

| 種類 | 排出量 (t) |
|---|---|
| ゴム屑 | 134.6 |
| シリコーンゴム | 37.1 |
| ポリシート、プラスチック | 57.3 |
| 汚泥 | 13.0 |

| | |
|---|---|
| 廃紙類 | 18.0 |
| 可燃ごみ | 16.6 |
| 木製パレット | 8.9 |
| その他 | 7.2 |
| 合計 | 292.7 |

排出量の推移




## リサイクルの推進

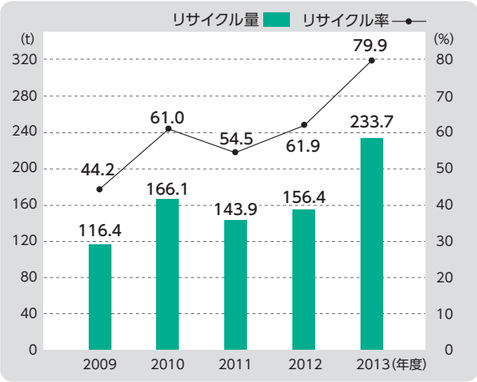
2013 年度は、前年度途中から RPF *化された第二福島工場排出のゴムバリとポリシートがすべてリサイクルされたことにより、リサイクル重量、リサイクル率が増加しました。

白河工場製品の増産により発生量が増えた廃プラスチック資材も再資源化できる業者が見つかり、リサイクル化を開始しました。

第二福島工場の排水中の浮遊物除去の過程で分離される汚泥について、路盤材としてのリサイクルを検討していましたが、汚泥の成分が基準をクリアできず、リサイクル化することができませんでした。別用途でのリサイクル化の検討を継続していきます。これらの結果、リサイクル率は前年度比 18.0 ポイント向上しました。

＊RPF : Refuse Paper and Plastic Fuel
主に古紙や廃プラスチックなどマテリアルリサイクルが困難な産業系廃棄物を主原料とした固形燃料

リサイクル量およびリサイクル率の推移




## トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR LAMPCAP中に含まれる不純物を取り除くため、トリクロロエチレンを使用してきました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壌ガス吸引浄化装置による土壌浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2013年度は、前年度、敷地中央部に発見されたあらたな汚染の中心を探るため、10m角の交点部分85カ所で深さ1mのガス調査を行い、最も強い検出地点の深度別の汚染を調査しました。汚染の中心を特定できましたが、今後、さらに浄化すべき範囲の絞り込みが必要です。一方、微生物を使用した汚染物質の分解効果を確認するため、既存の観測井戸を使用した現地浄化試験を行いました。この試験では分解効果が認められず、新たな分解条件の設定と効果確認が必要です。

今後は、これらの新たな課題について、調査、検討を進め、浄化活動に取り組んでいきます。

土壌ガス調査

## VOICE

### 設備を見直して節水に取り組みます

注射器などの医療用器具に使うゴム製品は、生産時の薬品や不純物が残らないように、洗浄しています。受注数が増えてきたため、2013 年に新たな洗浄設備を導入しました。

従来の洗浄設備では高圧シャワーをあて続けていましたが、新設備では、水を溜める槽のなかでゴムを回転させ、気泡を当てて洗浄するようにしています。水を 2 回使うところを 1 回で済むようにするなど、工程全体も見直しています。これらの取り組みにより、約 10% の節水効果が出ました。

工場全体の排水設備も見直し、水の汚濁レベルごとにパイプを分けて排水できるようにしました。重点的に監視すべき箇所が把握できたので、環境負荷の低減やメンテナンス効率の向上につながっています。

今後も、より効果的な方法を見つけ出すために、新たな方式を検証していきたいと思います。

第二福島工場　技術グループ
班長　高桑　英雄

社会への取り組み

# お客様視点のものづくりの追求

徹底して品質にこだわり、「品質の朝日ラバー」といっていただけるような
製品づくりを目指します。

## 品質第一主義

品質は朝日ラバーの「土台」と考えています。すべての活動は、品質という堅固たる土台の上に成り立っています。徹底して品質にこだわり、「品質の朝日ラバー」という評価をいただけるような製品づくりを目指します。

1998年にISO9001の認証を取得しました。品質改善のPDCAサイクルをまわし、顧客満足を目的とした製品やサービスの品質を保証するための管理体制を構築し、よりよい品質の製品をお客様にご提供し続けていきます。

## 品質改善活動

現場での改善が会社全体の成果につながると考え、当社ではすべての部門で改善提案制度を導入しています。新入社員からベテランまで、小さなことでもまず提案しようという風土づくりで繰り返し改善を進めていく環境を整え、さらに現場の改善を他の部署でも共有することで横展開を図っていきます。

## 環境にやさしいものづくり

社内工程にて使用する原材料、加工済み材料、外注委託品、副資材（新規品など）について、蛍光X線分析装置による分析を継続し行っています。また、昨今定期的に欧州より公示されるREACH規則 SVHC（高懸念物質）に該当しているフタル酸ビス（2-エチルヘキシル）（DEHP）についても、新規配合には使用せず、既存配合も計画的に配合変更をしており、環境にやさしいものづくりを目指して活動を行っています。

蛍光X線分析装置

## BCP（事業継続計画）の取り組み

東日本大震災のような大地震による大規模災害が発生した際において、緊急対策本部が迅速かつ的確に対応し、人的被害ならびに業務への影響を最小限にとどめることを目的にして被災直後の初期対応に関するBCPマニュアルを定めています。このなかで緊急時の組織、メンバーの役割、対応方法のほか緊急連絡網、安否確認サービス、備蓄品リスト、携帯用の防災カードなどが規定されています。

また、災害時の仕組み以外に地震災害時に製造設備や金型、測定装置を守るための重量物固定や落下防止、免震台などハード面の整備も進めています。

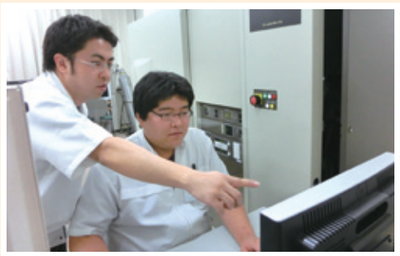
金型棚に取り付けられた固定ベルト

研究開発体制

## 先進的な製品・技術を開発

私たちの暮らしをより豊かにし、また自然環境に配慮したゴム製品を開発するため、常に材料と配合の研究を続けています。技術部門と研究開発部門の連携を強化し、会社としての総合力を発揮できるようにしています。新規分野の事業や新製品の創出と技術基盤の強化を目的として、積極的に社内外の技術の融合や先端技術の取り込みを進めています。

毎月、外部よりゴム配合に関するアドバイザーを工場にお招きし、技術部門と研究開発部門が合同で技術検討会を開催しています。配合技術の担当者や研究開発担当者が自分の担当するテーマについての問題点を持ち寄り、課題を共有してディスカッションを行うとともに講師から解決のヒントをいただきながら、実験や試作を繰り返します。テーマを完結させるとともに他のメンバーからも新しい技術的な知識を学んでいます。



社会への取り組み

# 働きやすい職場づくり

ともに成長していくために、すべての従業員がそれぞれの個性を生かし、
力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。

## 人材マネジメント

**朝日ラバーが目指す人材像**

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切にし、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラールの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

## ワークライフバランスの推進

### 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めていくためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。

子育てサポートしています
2011年認定事業主

主な両立支援制度一覧

| | |
|---|---|
| **出産・育児** | |
| 育児休業 | 最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能 |
| 子の看護休暇 | 子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位での取得も可能 |
| **介護** | |
| 介護休業 | 要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算93日間の介護休業の取得が可能 |
| 介護休暇 | 要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日、2人以上の場合は1年につき10日を限度として介護休暇の取得が可能 |
| **柔軟な労働時間** | |
| 所定時間外労働免除・制限 | 子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能 |
| 短時間勤務 | 子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能 |
| ノー残業デー | 第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ） |
| 半日単位有給休暇付与 | 1年につき5日分（半日単位で10回分）の半日単位の有給休暇が取得可能 |

両立支援制度実績（国内事業所および関係会社）　（単位：名）

| | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| 育児休業取得者 | 9 | 8 | 12 |
| 育児短時間勤務利用者 | 9 | 9 | 10 |
| 子の看護休暇取得者 | 23（131.5日） | 32（116.5日） | 30（111.5日） |
| 介護関連諸制度利用者 | 1（3.5日） | 2（4日） | 1（5日） |

有休休暇取得者数

| | | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|---|
| 有給休暇 | 平均取得日数（日） | 9.4 | 10.4 | 9.0 |
| 半日有休 | 取得人数（名） | 223 | 235 | 165 |

新規採用入社3年未満退職率

| | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| 新規採用入社3年未満退職率 | 10.0% | 0.0% | 0.0% |
| 入社人数 | 10 | 5 | 5 |
| 退職人数 | 1 | 0 | 0 |

## 職場環境の安全

工場の中には事故に発展しうるさまざまな危険が存在します。当社では、毎月工場毎に安全衛生委員会を開催し、安全の基本となる2S（整理・整頓）を中心とした工場内パトロールを継続しています。

当社では、従業員の声を集め、働く環境を整備する仕組みとして女性の視点による職場環境の課題を話し合う場を設けています。この話し合いを元に、2013年11月に福島工場正面駐車場の出口すぐのカーブにカーブミラーを設置し、事故を未然に防ぐための対策をとりました。また、第二福島工場の敷地外駐車場への道が暗く危険であるという声から、街灯を設置しました。これからも従業員の多様な視点を生かして職場環境の改善につとめます。

新規に設置した外灯

新規に設置したカーブミラー

## メンタルヘルスケア

職場に存在するさまざまなストレスへの対処として、メンタルヘルスケアの活動に力を入れています。外部から講師を招いて管理職向けの勉強会を開催し、日常の仕事の管理面で配慮すべき点や相談できる風土づくりを通じて、生き生きと働くことのできる職場づくりを目指しています。また、規程を整備して会社として不公平感のない対応ができるよう制度づくりを進めているほか、「なんでも相談窓口」を設置して上司や同僚には話しにくいことも相談できる体制を整えています。

## 従業員の状況

従業員数(2014年3月31日現在)

（単位：名）

| | 正社員 | 準社員 | 嘱託 | パート | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本社 | 32（5） | — | 4(0) | — | 36（5） |
| 大阪営業所 | 4（1） | — | — | — | 4（1） |
| 福島工場 | 72(19) | 9（4） | — | 1(1) | 82(24) |
| 第二福島工場 | 60(22) | 3（0） | — | — | 63(22) |
| 白河工場 | 81(23) | 6（4） | — | — | 87(27) |
| **(株)朝日ラバー合計** | **249(70)** | **18（8）** | **4(0)** | **1(1)** | **272(79)** |
| 朝日FR研究所 | 8（2） | — | — | — | 8（2） |
| ARI INTERNATIONAL Corp. | 1（0） | — | — | — | 1（0） |
| 東莞朝日精密橡膠制品有限公司 | 140(94) | — | — | — | 140(94) |
| 朝日科技(上海)有限公司 | 2（1） | — | — | — | 2（1） |
| **総合計** | **400(167)** | **18（8）** | **4(0)** | **1(1)** | **423(176)** |

※( ) 内は女性人数

### VOICE

#### メンタルヘルスケアのサポートを拡充します

従業員が長く働ける職場づくりの一環として、メンタルヘルスケアに力を入れています。

まずは、従業員がメンタルの問題を抱えないようにすることが大切です。職場長や安全衛生委員会のメンバーなどを中心に、外部の研修などに積極的に参加するように促しています。休みがちな人や元気がない人に、声かけをする雰囲気が出てきました。

メンタルの問題を抱えてしまった後は、専門家とともに解決に向けて取り組むようにしています。本人には、復職のトレーニングプログラムへの参加をすすめます。同じような境遇の人たちとともに、一カ月半ほどかけてディスカッションし、悩みを共有したり、解消したりできるようにするものです。

従業員は大切な戦力であり、長く働いてほしいと思っています。今後もサポート体制を拡充していきます。

管理本部　人事総務グループ
係長　佐藤 健

# 社会とのコミュニケーション

朝日ラバーは社会とのコミュニケーションを大切にしています。
工場拠点におけるさまざまな活動を継続して行い、地域社会の一員としての役割を果たしていきたいと願っています。

## 個人投資家向け会社説明会の実施

2013年7月に、大阪と東京で個人投資家向けの会社説明会を開催し、伊藤社長から当社の事業内容と技術的な強みなどについて説明しました。質疑応答では、円安の効果や産学との連携について質問もありました。

## 小田川小学校の皆様の工場見学

2013年11月、白河市の小田川小学校の5年生が社会科の授業の一環で白河工場を見学されました。ゴムの原料や蛍光体による色の変化を興味深く見ていました。

## インターンシップ生が白河工場で研修を実施

2013年6月、福島県立白河実業高校の生徒6名、7月には日本大学工学部の学生1名をインターンシップ生として受け入れました。当社では毎年企業体験を通じた就業意識の向上を目的としてインターンシップ生を受け入れています。

## 朝日ラバー杯卓球大会を開催

2013年7月に、泉崎中学校体育館で第19回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催しました。今大会には西白河地区16校から男女222名の選手が出場し、個人戦、団体戦で熱戦が繰り広げられました。

## JR東北本線泉崎駅の清掃活動

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に4～5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2013年で18年目となります。

## 新入社員による清掃活動

社会に奉仕する心構えを身につけるため、毎年新入社員研修の一環として地域への奉仕活動を実施しています。地元の特別養護老人ホーム「ケアハウス泉崎」では、館内の清掃などを行いました。

### VOICE

#### 人柄で朝日ラバーを選びました

大学3年生のときに2週間、インターンシップ研修生として白河工場で、材料の燃焼試験などの業務を体験しました。

先輩従業員の方々からは、開発の苦労話や、製品のよさがうまく社会に伝わっていなくて歯がゆいといった話をしていただき、自社の製品への愛情や誇りがとても感じられました。こういう先輩方とずっと働きたいと思ったことが、就職時に朝日ラバーを選んだ理由です。

今は材料の配合の研究に携わっています。誰かの役に立っているということを強く実感できるため、学生時代に研究していた頃よりも、今の方が充実しています。自分の研究の成果が、将来の製品化につながればうれしいです。製品への愛情を、学生たちに伝えられるような先輩になりたいです。

株式会社朝日FR研究所
研究員　寒河江 里佳